

チーム名&ロボット名	参加者 名簿
ハイテクセブン	チーム代表者: 松本 健吾(マツモトケンゴ)
	チーム監督者: 長谷川 尚哉(ハセガワナオヤ)、松本 健吾
	参加者: 秋庭 森太朗(アキハ シンタロウ), 植村 一貴(ウヰムラ カズタカ), 風林 優之(カゼハヤシ ムサユキ), 要 翔貴(カメショウキ), 北出 一誇(キタデ カズホ), 河野 智明(コノトモアキ), 竹村 龍昌(タケムラ リュウショウ) 所 属: 大阪ハイテクノロジー専門学校 ロボット学科 1年



橋を伸ばした状態



車体内部の橋機



ロボット製作費	約 16万円
ロボットの大きさ	590 × 590 × 800 (アーム折りたたみ時)
ロボットの重量	約 16 kgs

特 徴

- 【車体部分】
大口径タイヤを6輪装備
- 谷ゾーンを渡る機構として、
・車体内部に伸縮可能な橋を搭載
・タイヤの内側に補助キャタピラ
- 【アーム部分】
オブジェを掴み・運ぶ機構として、
吸引パッドと吸引ポンプを使用
- アームをオブジェに対して平行に
駆動するため、平行リンクを採用
- 【デザイン】
ウルバンバ谷に架かる虹をイメージ
3色(赤・黄・緑)のLED点灯

製作時のエピソード (苦労話・話題など)

少しの段差を乗り越え、向こうの段差まで地面につかずに渡らないといけないため、ロボットの全体図を構想するだけで時間がかかりました。ロボットの本体製作時には、ロボットの図面の作成や、加工する機械にもまだ慣れていなかったのになかなか上手いできないこともあり、金属板の穴あけとねじ穴をつけるのが大変でした。特に12月以降は、放課後に遅くまで残ることが多く、また部品の加工時に間違っ加工してしまうこともあり、臨機応変に対応しました。ロボット全体が完成し、考案した通りに機構ができあがった時が一番楽しく、動いたときには今までにない達成感がありました。ロボットコンテストでは精一杯がんばりたいです。